

2020年4月21日



2020年2月期 決算説明会(電話会議)資料

《目次》

- I. アークスグループの取り組み P1
- II. (参考資料)2020年2月期業績、2021年2月期業績予想 P2

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

I. アークスグループの取り組み

代表取締役社長 横山 清

1. 2019 年度の環境変化

- ◇消費増税実施 …… 消費者心理の悪化
- ◇キャッシュレス・ポイント還元事業導入 …… 価格競争・ポイント競争の激化
- ◇新型コロナウイルス感染症拡大(コロナ前/コロナ後)
 - ①消費構造の変化
 - ②DX(デジタル トランスフォーメーション)の促進
 - ③景気の急減速・後退

2. アークスグループの取り組み

(1) 新基幹システムの活用(2019 年 10 月本格稼働)

- 「標準化」と「業界特殊性」を両立した業界プラットフォーム完成、DXへの対応
 - ⇒ グループシナジーの追求、効果の刈り取りのため
 - 商品調達力の強化、間接業務の集約に向かう

(2) 協業組織 CGC グループ、新日本スーパーマーケット同盟との連携強化

- ⇒ スケールメリットの発揮、好事例の横展開

(3) リアル店舗の活性化、働きがいの更なる向上

- ①ユニバース食肉プロセスセンター稼働(2020.2 月)
- ②ラルズ「スーパーチェーンシガ」をスーパーアークス等へ業態変更完了(2020.3 月)
- ③ダイバーシティ推進プロジェクト活動本格化

Ⅱ.(参考資料)2020年2月期業績、2021年2月期業績予想

1. 2020年2月期 業績サマリー

(1) 四半期業績

(単位:億円)

	実績(金額)				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	1,259.7	1,307.0	1,251.4	1,374.0	5,192.2
前年差	0.8	△8.0	13.9	62.9	69.7
売上総利益	311.3	324.6	318.9	355.6	1,310.5
前年差	△1.4	0.1	2.0	17.1	17.8
販管費	286.1	290.1	303.0	310.1	1,189.3
前年差	5.5	3.5	19.3	16.5	44.8
営業利益	25.2	34.5	16.0	45.5	121.2
前年差	△6.9	△3.4	△17.3	0.6	△27.0
経常利益	29.5	39.3	19.3	49.3	137.5
前年差	△6.6	△2.7	△17.8	0.5	△26.6
親会社株主に属する 当期純利益	18.9	26.2	11.1	12.5	68.7
前年差	△4.8	△2.2	△7.5	△18.5	△33.0

	実績(売上高比率)				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上総利益率	24.7%	24.8%	25.5%	25.9%	25.2%
前年差(率)	△0.1%	0.1%	△0.1%	0.1%	0.0%
販管费率	22.7%	22.2%	24.2%	22.6%	22.9%
前年差(率)	0.4%	0.4%	1.3%	0.2%	0.6%
営業利益率	2.0%	2.6%	1.3%	3.3%	2.3%
前年差(率)	△0.6%	△0.3%	△1.4%	△0.1%	△0.6%
経常利益率	2.3%	3.0%	1.5%	3.6%	2.6%
前年差(率)	△0.6%	△0.2%	△1.5%	△0.1%	△0.6%

(2) 前年差要因分析

①売上高・売上総利益・販管費

(単位:億円)

1 Q	売上高	0.8	GW10連休も4月不振により微増収
	売上総利益	△1.4	一過性要因もあり率も前年割れにて減益
	販管費	5.5	計画内も前年差増加(人件費+3.9、販売費+2.0)
2 Q	売上高	△8.0	冷夏の天候不順、特に7月不調で減収
	売上総利益	0.1	生鮮部門好調(+0.3%)もあり利益率上昇、売上総利益増益は確保
	販管費	3.5	管理費△1.1コントロールも人件費+3.8、販売費+0.8
3 Q	売上高	13.9	前年震災の反動減と増税の影響があったものの伊藤チェーン寄与(+28.9)により微増収
	売上総利益	2.0	売上高同様に伊藤チェーン寄与(+7.3)により微増益
	販管費	19.3	システム+4.2、人件費+3.6、P販促費+2.9 (伊藤チェーン+7.3)
	※9月 胆振東部地震の反動減 道内売上減△6.4、売上総利益減△2.6、販管費+7.2、経常利益△9.5		
4 Q	売上高	62.9	閏年、感染症拡大による特別需要により増収(伊藤チェーン+31.8)
	売上総利益	17.1	売上増、利益率増(+0.1%)により増益(伊藤チェーン+8.2)
	販管費	16.5	人件費+6.2、システム+5.9、P販促費+2.1 (伊藤チェーン+7.4)

②営業利益・経常利益(3Q)

9月・胆振東部地震の反動減(△9.5)、10-11月・システムコスト(+3.9)、ポイントコスト(+1.4)、人件費(+1.4)等の経費増により3Q(9~11月)で対前年17億円台の減益

③当期純利益(4Q)

各段階利益の減益に加え、一部事業会社の繰延税金資産の取崩による法人税等増加(+10.7)の影響

2. 2021年2月期 業績予想

(単位:億円)

	上期	下期	通期
売上高	2,660.0	2,640.0	5,300.0
前年差	※1 93.3	14.6	107.8
前年比	103.6%	100.6%	102.1%
営業利益	64.3	67.7	132.0
前年差	4.6	6.2	10.8
前年比	107.6%	110.2%	108.9%
経常利益	72.5	75.5	148.0
前年差	3.6	6.9	10.5
前年比	105.3%	110.1%	107.7%
親会社株主に属する 当期純利益	45.0	40.0	85.0
前年差	△0.1	※2 16.4	16.3
前年比	99.8%	169.3%	123.7%

	上期	下期	通期
売上総利益率	25.41%	25.91%	25.66%
前年差(率)	※3 0.63%	0.22%	0.42%
販管費率	23.00%	23.34%	23.17%
前年差(率)	※4 0.55%	△0.01%	0.26%
営業利益率	2.42%	2.56%	2.49%
前年差(率)	0.09%	0.22%	0.16%
経常利益率	2.73%	2.86%	2.79%
前年差(率)	0.05%	0.25%	0.14%

※1.伊藤チェーン貢献分+66.0

※2.前年一過性要因の反動
(繰延税金資産取崩による法人税等増加)

※3.システム効果、センター稼働率向上他

※4.システム経費増加(~20年9月)

3. システムコスト見込み

	2019/2期			2020/2期(実績)			2021/2期(見込み)		2022/2期(見込み)		2023/2期(見込み)	
	実績	実績	前年差	見込み	前年差	見込み	前年差	見込み	前年差	見込み	前年差	
新システムコスト内訳												
減価償却費	0.5億円	8.0億円	7.5億円	18.9億円	10.9億円	19.1億円	0.2億円	19.1億円	-			
保守費他	4.9億円	9.2億円	4.3億円	10.3億円	1.1億円	9.4億円	▲0.9億円	7.4億円	▲2.0億円			
小計①	5.4億円	17.2億円	11.8億円	29.2億円	12.0億円	28.5億円	▲0.7億円	26.5億円	▲2.0億円			

4. 計画達成に向けた打ち手

【 売上総利益獲得に向けた施策 】

●システム稼働に伴う効果刈取り

- ✓ オペレーション見直し等によるロス率改善効果
- ✓ 商品調達領域における原価低減効果

●新日本スーパーマーケット同盟効果

- ✓ 商品分科会(取扱い商品拡大・企画拡充)による利益増

●その他施策

- ✓ センター稼働率向上による売上総利益獲得

【 販管費削減に向けた施策 】

- ✓ エネルギーコストなどのコスト削減
- ✓ 生産性向上に伴う人件費減
- ✓ グループ内最適を目指すセンター・物流改革

- ✓ 資材消耗品の共同買付によるコスト削減

- ✓ ポイント還元事業への対抗販促の見直し
チラシコスト削減など

以上